

機関報告 1998/1999 年度  
マサリク大学哲学部言語学科日本語講座

作成者：鈴木 雅晴

正式名称

Masarykova univerzita v Brně, Filozofická fakulta, Katedra jazykovědy  
(Masaryk University in Brno, Faculty of Arts, Institute of Linguistics)  
(マサリク大学哲学部 [文学部] 言語学科)

所在地

住所：Katedra jazykověda, FF MU, Arne Nováka 1, 660 88 Brno, Czech Republic  
電話：420+(0)5-41121 111 (代表)  
420+(0)5-41121 411 (直通；ただし9月以降変更の可能性あり)  
FAX：420+(0)5-41121 406 (代表)  
internet: www.phil.muni.cz

組織の沿革

マサリク大学は1919年、チェコの南部にあるモラヴィア地方の中心的都市、ブルノ市に創立された。3年間で学士、4-5年間で修士号を取得する。一部を除き専攻を二つ選択する、いわゆるダブル・メジャー制である。

現在の日本語講座は、1994年に開始された。言語学科主導のもと行われている公開講座の一つ。同大学および市内の他大学の自由選択科目としてだけでなく一般に開放されてもいる。

なお、日本学を学ぶ学士コースを設立する予定であったが、現在のところ財政事情の悪化から中止。来年度は規模を縮小する。講座自体の存続も危ぶまれている。

担当者

日本人講師：鈴木 雅晴、平山 幸士 以上2名

授業内容

授業名	登録者数	合格者数	授業回数	担当者
日本語 1	*1	*1	3コマ / 1w	H
日本語 A	*1	*1	4コマ / 1w	H
日本語 2	*1	*1	4コマ / 1w	H
日本語 3	3	3	4コマ / 1w	S
日本語 4	0	0	4コマ / 1w	S
日本語 5	1	1	4コマ / 1w	S
文字と発音 1	-	-	-コマ / 1w	H
文字と発音 2	-	-	-コマ / 1w	H
文字と発音 3	3	3	1コマ / 1w	S
日本事情 A	? <sup>2</sup>	? <sup>2</sup>	2コマ / 1w	H
日本事情 B	4	2	2コマ / 1w	S

(1コマ=45分)

担当者：H = 平山、S = 鈴木

1\* 担当者の報告ミスにより詳細不明。総計で24人が登録し、11人が合格。

2? 担当者の報告がないため不明。

本年度は、従来の継続である「日本語1-5」の他に、進度を速めに設定した「日本語A」、発音練習と漢字に当てた「文字と発音」、ならびに「日本事情」を開講した。

日本語Aに関してであるが、従来時間の制約から初級終了程度の学習段階を終えるのに3年かかるため、日本課程希望者の研究に間に合うように1年半から2年で初級を終わらせるカリキュラムを試みようとしたのが本来の役割であった。

実際に行われた内容は以下の通り。

「日本語A」の内容は以下の通り。ひらがな、カタカナ。漢字（約100個。レベルは小学2年生まで）数字の教え方、時間の教え方、簡単な会話文。（値段、道順、場所、数、人物、方法、そして年齢を問う）。動詞の変化の種類（五段活用など）とその使い方の学習。形容詞、副詞、簡単な助詞、助動詞の学習。疑問詞とその使い方の学習。体の部位を含んだ熟語とさまざまなあいさつ文。

「日本語1」の内容は「日本語A」の内容のうち、動詞の変化の種類、熟語、それに助詞と助動詞を除いたもの。学習した漢字の数は約50。

「日本語2」の内容は「日本語A」の内容のうち、ひらがな、カタカナを除いたもの。

「日本語3、4、5」は昨年度から継続して学習している学生向けの講座である。内、「日本語4」は受講者がいなかったため成立しなかった。

「日本語3」は昨年について、水谷修・信子『An Introduction to Modern Japanese』The Japan Times, 1977を教科書として用い、第20課まで終了した。

「日本語5」は主教材として水谷信子『総合日本語-初級から中級へ』凡人社, 1990および自作テキストを用い、中級前期に当たる内容を行なった。

「文字と発音1-2」は講師の意向により行われなかった。

「文字と発音3」は、発音練習は自作教材を用いて、発音・聴音の際に著しく問題となる点を重点的に練習した。漢字学習は加納千恵子他『基本漢字500 vol.1』凡人社, 1990（第3版）を主教材として用いた。漢字の体系的な学習はこの時間が初めてである。また、漢字に特徴的な運筆の学習のために水書道を用いた。

「日本事情A」は担当者の報告もれのため不明。シラバスによれば、現代日本の政治、地理、経済。7世紀から20世紀にかけての日本の歴史。現代の日本人、特に若年者層の考え方やライフスタイルを漫画で学ぶ、とある。

「日本事情B」は主に、言語学的観点から見た日本（語）について、社会および文化について簡単な説明をした。また、本年度はブルノ市内で日本映画が何本か上映されたので、これを教材に日本について様々な観点から話し合った。

#### 問題点など

従来から、時間数の不足と頻繁な講師の変更に起因するカリキュラムの不備と不統一について改善しようとしてきた。時間数についてはかなり増えてきたのだが、残念ながら、カリキュラムの統一性の無さと混乱はさらに増してしまった。

また、財政面での問題がさらに大きく影響しだし、日本語講座自体どうなるかわからない状態にある。

ブルノ近辺でも日本語の需要は少しずつ増えており、学習希望者の数も少なからず存在する。

このような状況を考えると、今のところは講座を安定させ、継続させることが何より優先されるべきだろう。